先日推進員の前期教習があり、私たちがすんでいる家について面白いご説明がありました。在家仏教の在家についてのご説明でした。家という字の中の豕（シ）は「けもの」という意で、「けもの」でも豚をいうのだそうです。生まれて死ぬまで五欲をむさぼり、追い求めるしかない豚のようなものがすんでいるところを家というのだそうです。五欲とは、食欲、色欲、睡眠欲、名誉欲、財欲のことで、我々の苦しみも、それをなんとかしようとする苦しみでしかありません。生まれて死ぬまでその繰り返しだというのです。それではせっかく生まれてきて虚しいと、お釈迦様は家を出られ尊い世界に出る仏教がはじまりました。ここからは私のことです。私たちは五欲を離れて生きることはできません。親鸞聖人はご結婚され、在家生活を営みながら仏法をいただいていかれました。智慧と慈悲のこもった一声の南無阿弥陀仏で救われるという教えを説いてくださいました。易行難信。行うは易く、信ずるは難し。浄土真宗において「聞」は重要なことなのです。身に頷くことは難中の難と言われることが身に沁むこの頃です。　　　　　　　　　　合掌

　**【平成２6度第5回定例聞法会】**

　　　　　**平成２7年5月１３日（水曜日）**

　　昼の部　一時半～、　夜の部　七時半～

　　　　　　〈念誦、お経本、肩衣〉